



支援室だより

大阪府立思斉支援学校
令和7年度 第4号

質問者と応答者のスムーズな役割交代をめざした会話スキルの指導

対象の実態及び課題

発話は流暢であり、丁寧な標準語で話しているが、自分から他者に質問したり、誘ったりするような発話は少ない。また、話したいことを一方的に話し続けたり、相手の話に興味がないときにはその場から離れてしまったり等、聞き手と話し手の役割交代のタイミングをはかることが難しい。

指導目標

課題学習場面において

- ・「だれが」「何を」について、質問者、応答者の立場をスムーズに切り替えて会話できる。
- ・「なぜ」について質問する側、応答する側の立場をスムーズに切り替えて会話できる

学習内容

〈 ①絵カード用いて ・ ②動画を用いて 〉

1. 質問者による「だれが、何をしていますか」の問いに、応答者は「～が、～をしています」と答える。
 - ・質問者と応答者の役割を交代して取り組む。
2. 質問者による「～なのはなぜですか」の問いに、応答者は、「～だからです」と答える。（役割交代）。
 - ※ 課題場面から、他場面(学級、家庭場面等)に展開する。

指導方法

絵カード及び動画(10 秒程度)の教材は、生活場面での動作やよくある状況から選ぶ。

(例;○○さんが△△さんの持っている大きな荷物をみて驚いている動画を見て、質問者は「○○さんはなぜ驚いていますか」と問い、応答者は「△△さんの大きな荷物をみて驚いています」と答える等)

- ・ ①の課題は絵カード、②の課題は動画を用いて役割を交代してそれぞれ 10 試行ずつ取り組む。
- ・ はじめは、1 試行ずつ質問者と応答者の立場を確認し、課題に集中して取り組むように促し、徐々に役割交代のリズムを早くしていく。
- ・ 適切な質問(又は応答)でないときは、見本の会話を提示してから再度取り組む。
- ・ 時間の終わりに課題の中でうまくやりとりできたところを振り返って、確認する。
- ・ 個別の指導場面で、安定してできてきた内容については、保護者や他の教員と連携して、他の場面、他の人との『質問—応答』の応用場面を設定していく。